

わたしたちの身のまわりにある水銀

水銀は、体温計や血圧計、蛍光灯など生活の身近なところで使用され、わたしたちの暮らしに役立ってきました。また、他の金属と容易に混合する特性を利用して、銀やすず等と合金をつかってむし歯治療の充填剤として使用されてきました。

さらに周りを見渡すと、古墳の内壁や石棺の彩色、神社の鳥居などにも使用してあることから、昔からいろいろなところで利用されていた身近な金属であることが分かります。

体温計／血圧計

以前は水銀式が普及していましたが、現在は、電子式が普及しています。



蛍光灯

蛍光管の中に微量の水銀が封入されていますが、1本当たりの水銀量は1975年度の約50mgから2005年度の約8mgに減少しています。(40Wタイプ)



乾電池／ボタン電池

乾電池は1992年に水銀が使用されなくなり、水銀電池は1995年に生産が中止されました。現在、ボタン型電池に微量の水銀が使用されていますが、電気店や時計店、カメラ店などで回収し、リサイクルされています。



ワクチン

防腐剤として「チメロサル」という有機水銀を含む消毒剤を使用してきました。近年はチメロサルの使用量を減少した製品や使用しない製品が登場しています。



むし歯治療充填剤(水銀アマルガム)

1970年には国内で年間約5.2tの水銀が使用されていましたが、1999年には年間約0.7tに減少しています。



消毒剤・医薬品・化粧品・農薬

消毒剤は、1973年に製造が中止されました。(海外製造の原料を輸入し、販売されているものあり) また、水銀を用いた医薬品や化粧品、農薬への使用は、1974年に禁止されました。



★近年は水銀を使用しない代替製品の開発が進み、水銀使用量は約30年前の約60分の1に減少しています
※水銀使用量〔1970年：1,269.6t → 2003年：20t弱〕